



地域支援センターだより

地域支援センターやわた

第2回「スキルアップ研修会」を実施しました

第2回スキルアップ研修会は、児童心理治療施設るんぴに学園・副園長 朝比奈 裕氏をお迎えし、「愛着障害の理解とその支援」という演題で御講演いただきました。

今回の研修会は12/23(月)に、本校体育館にて集合形式で開催いたしました。保育園・幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、その他関係機関の職員の方々と、本校教職員が一堂に会し、学びを共にしました。



研修会では、児童養護施設や児童心理治療施設についての御紹介や、愛着障害について御講義をいただきました。「生物・生理学的に親から離れないようにする仕組みが愛着であり、それを利用して生理的機能や感情・感覚、行動といった調節機能を獲得していく」「安全基地が安全でなければ様々な調節機能が未獲得となり、さらに逆境的小児期体験が大人になってからの健康にまで深刻な影響を与える」とのことでした。支援者の対応心得として、実践事例も交えながら、押しつけがましくなく温かく諦めない態度を示すことや、チームで情報を共有し良きモデルを示すことが大切であると教えていただきました。

御参加いただいた方からの感想（一部抜粋）

- チームとして子どもたちの良きモデルになるようにすることが大切だと改めて感じた。職場で雰囲気づくりをしていき、子どもをよく見て、共有して、作戦を立てていきたい。（保育園・幼稚園・こども園）
- 暴言を吐くしかできなかった子どもの背景、育ちを知ることができる保育者になっていかなければと思う。（保育園・幼稚園・こども園）
- 愛着障害とは、他者との関係性の機能が未獲得と知り、不適切な言動を受けて育ってきたのだから未獲得にも納得である。安心できる環境や正しい感情の表現を知らせることが大切だと学んだ。（小学校）
- 子どもの問題行動には背景に何か理由があると考えながら注視し、チームとしてよいモデルを示し、安全基地となれるように働きかけていきたい。（小学校）
- 愛着を仕組みと捉えるなら、教員でも3年という期間で子どもの愛着を作れると思ったので、諦めずに頑張りたい。（中学校）
- 施設に入所してきた子どもは愛着でびったりはりついたものを無理やり剥がされ、絶望と自己否定の気持ちを抱えているとの話が印象深かった。時間がかかるかもしれないがよき隣人でありたい。（関係機関・その他）
- 子どもの言動には育ちの中で未習得な部分が大きく関わっており、愛着障害を幼い頃の必要な経験が足りてないと捉えることで実践の幅も広がると感じた。教育で少しでも改善できることを願いたい。（八幡支援学校）
- 生まれ育った環境が当たり前ではなく長い人生を生きるための力をどう育てるかを考えさせられた。事例よりどんな自分も受け止めて考えるきっかけを与えられた経験が成長に繋がるのかと感じた。（八幡支援学校）

次年度も、7月と12月にスキルアップ研修会の開催を計画しております。

また奮って御参加くださいますようお願いいたします。